

職業像：鏡もてみるごとく隣に？～内側から見た職業像～ Image of the Profession : From the Inside

出典：PA Times（全米公共・行政学会月刊新聞） 2009年11/12月号

著者：Erik Bergrud, Mary Hamilton, Tammy Esteves

和訳：HASPA 翻訳ボランティアスタッフ 新林正哉（兵庫県市町振興課）

[ASPAの許可を得て和訳]

私達は、行政に関わる様々な人々の見方を明らかにすることによって、PA タイムズに寄稿する「職業像：鏡もて見るごとく隣に？」というテーマに取組むこととした。我々は皆自分の価値観や先入観、好み、経験という枠組みを通して職業というものを理解しているという仮定に基づき、行政の様々な分野を代表する人達からコメントを得るために努めた。私達は、長年にわたる職務経験を持つ者や仕事に就いたばかりの者、様々な民族や人種グループ、男性および女性、学者と実務家、政府の様々な階層や部門に属する者と接触した。そして彼らの一人ひとりに「もし、自分の将来の仕事を探している学生に、行政という仕事を説明するとしたら、あなたならどのように説明しますか？」という同じ質問を投げかけた。質問への回答は次のようなものであった。

「行政は他とは全く異なった仕事だ。他の専門職は、集団内部の統制にのみ服している。例えば医者などがそうだが、当該専門職の一員でなければ良し悪しを判断する権利は誰にも無い。だが行政は違う。行政の良し悪しを判断する権利があると主張する人達のリストは膨大なものだ。立法者、利益集団、ジャーナリスト、裁判官、そして一般市民がそうだ。公務員はガラス張りの状態で仕事をしていると言える。しかし、公務員には他の点でも異なっている点があるし、その異なっている点が彼らの仕事をやりがいがあるものにしている。公務員は技能と知識を駆使して最も広く公共の利益のために働くのだ。」

Camilla Stievers (クリーブランド州立大学特別招聘教授、NPO団体元マネージャー)

「行政では、公的組織と非営利組織を公共の利益に役立つよう経営していくことが必要とされる。公務員は、地域社会、州、連邦といったレベルのあらゆる政策領域にかかわりを持つことになる。これらは、最も真剣な意味で重要な仕事であり、人々の人生を左右する仕事である。これが、職務経験の最初から最後まで続くのである。もし未来に何か影響を及ぼしたいと考えているのなら、行政こそがふさわしい分野なのだ。」

Robert. B. Denhardt (アリゾナ州立大学上級教授、全米行政学会会長 (1987-1988))

「現代は、行政に関わることがエキサイティングなことになっている時代である。部門横断性やグローバリゼーションといった考え方方に加え、地域レベルや国家レベル、そして国際的なレベルで私達全員に影響するますます複雑になる数多くの問題に対処していくという考え方方が、近い将来におけるこの分野のあり方を決定することになるだろう。ここ数年、公務員の役割についての一般公衆の見方が変化してきた。世間から隔絶した官僚制度の一員ではなく、多くの緊急の課題について創造的な解決を模索する人々の一員であるという見方が現れてきているのだ。この分野は、創造性、目的、そして身近な地域社会や海外の人々のために実践される努力といったものに満ちているのだ。」

Kyle Farmbry (ルトガーズ大学助教授)

「行政は2つの目標に着目する。一つ目は、政策を技術的に実施することであり、二つ

目は—こちらがより重要な目標なのだが—政策を実行しつつ、公共的な価値を守ることである。行政は、政策の実行についての基本的な技術上のあれこれ、予算編成や法律といったもの、を理解しながら、社会的公平や公共的なサービス、市民参加、効率性、実効性といった価値をも考慮しなければならない。学術的ないし実務的な試みとして行政が重要である理由は、行政が機能しなければならない独特の規範的な文脈を理解する必要があるためである。公務員は、有能な管理者であると同時に、自分達の社会にとって重要な価値を強力に擁護する者でなければならないのだ。」

Shannon Portillo (ジョージ・メイソン大学助教授)

「大抵の学生は、自分達にとって「キャリア」が何を意味するのか詳しく説明できない。この語を使うとき、大抵の人は、それは「世間に出て何をして金を稼ぐか？」ということを意味していると考えている。しかしそれは職業（ジョブ）であって、キャリアではない。

実際のところ、「キャリア」という語を使う際には、「自己実現」や「自己の念願成就」といったことを意味していることが多い。この目標は様々な職種、医者や教師、そして公務員といった仕事に就くことで実現することができる。

なぜ行政があなたにとって選択肢になりうるのか私の考えを述べてみよう。この世界には、生活の質に大きな影響を及ぼし、自己実現を促進したり妨げたりする3つの制度がある。家族、教会、そして政府だ。あなたは家族と縁を切ったり、別の家族を形成したり、そういうものの関わりを拒むことができるかもしれない。あなたは、教会から離れ、別のものに帰依したり、そういう他のもの拒んだりしたりすることができるかもしれない。しかし、あなたが政府と関係を絶つことは不可能である。政府から離れて、関わりを拒むことはできない。政府はあなたの自由を定義し、望ましい振舞いの基準を設定する。このようなことを政府は社会、商業、スポーツ、教育、科学技術、非営利活動などの全ての分野で行っている。

公務員になると、自由を保障し、受容可能な行為を定義する上で自分が決定者になることを、創造性や科学、医療、教育、社会福祉、芸術を促進し、価値あるものと見なす社会を生み出すまでの指導者となることを意味する。MPA の学位を獲得することで、あなたは、公共の安全の責任者、軍事指揮官、病院や保健の管理者、シティ・マネージャー（市政担当者）、行政機関の長、人事の責任者、研究者、大学の理事、非営利団体の経営責任者になる資格を得るだろう。これらの役割のどれであれ、あなたが自己実現を達成できる可能性はとても高いのだ。」

Sy Murray (サバンナ州立大学教授、全米行政学会会長（1986～1987）、元シティ・マネージャー)

「あなたが、人や地域社会の助けとなる、困難な、しかし自分自身にとってやり甲斐のある仕事を求めているのであれば、行政こそがあなたの天職だ。公務員は個々人が公的な組織や地域社会を劇的に変化させ、改善させることができることを証明する存在である。行政という分野では、常に新しい指導者が頭角を現す余地があり、こうした指導者が現れた場合には、彼らを必要とする仕事や機会がふんだんに存在しているのだ。」

Scott. W. Bovick (ネブラスカ州サービー郡副管理者 元全米行政学会ネブラスカ支部長)

「公務員の基本的な目的とは、政府の組織や手続を通じて市民に奉仕するとともに、彼らに公共善を求め、公衆に対する相互責任を受け入れさせようすることである。このためには次のことが必要になる。

- ・国民の福利と民主的社會の価値に対する忠誠
 - ・公共の利益を見出す自身および市民の能力への固い信頼
 - ・アメリカの未来及び市民の知性と能力に対する樂觀主義
 - ・しっかりしたユーモアのセンス
 - ・報われることの稀な状況にあっても努力し続ける一貫した意思
 - ・しばしば訪れる逆境の中でも学習し、成長する能力
 - ・政府における自分の役割が、この世界において最も困難だが報いも大きな仕事の一つであるとの信念
- といったものである。
- そして、あなたが
- ・自分に正直で
 - ・過ちを認め、そこから学ぶことができ
 - ・自分が可能にしたことの功績を他人に譲り
 - ・時折向けられる嘲笑に耐え
 - ・法外な責任を受け入れ
 - ・妥協の道を模索し
 - ・不公平な批判を耐え忍び
 - ・金銭的豊かさをやり甲斐の指標とすることを拒絶し
 - ・職務の宣誓を真剣に受け止め
 - ・民主的で憲法を持つ唯一無比の連邦制の共和国における知られざる英雄となることに満足を見出す
- といった人物なら、ジェームズ・マディソン達が創設した政府において良き公務員になれるだろう。行政とは意氣地なしに向いた仕事ではないのだ。」
- Gary. L. Wamsley (バージニア工科大学 公共政策研究所 名誉教授)

「人はしばしば「重要なことを成し遂げ」たり、「足跡を残す」ために自分の仕事を選んだと述べることがある。行政はそのような機会を提供してくれる。全世界規模の競技場の中にあって、競争力があり、その場にふさわしい存在であり続けるために、地域社会、州、国を進歩させるための変化が必要であることが、今日ほど明らかであったことはない。そして、変化を生み出すには、創造性や革新、公共善に奉仕するという強い情熱が必要なのだ。もしあなたが変化を引き起こすことに挑戦する意欲を持ち、重要なことを成し遂げたいと考えているのなら、行政という分野において、数多くの機会を見つけることができるだろう。」

Marion Wolpers (OneKC WIRED 生涯学習部門会計責任者、全米行政学会カンザス・シティ支部長)

「経営上のツールやテクニックの基本的な要素は行政と私企業で似通っているかもしれないが、行政は私企業とは明らかに異なっている。例えば、行政は、複数の次元で価値を考慮することを求められる。企業経営では効率性が最も重要な価値となるだろうが、行政では公共の利益や正義、公平性、衡平、法の支配、参加、透明性、公衆への説明責任といった、より重要な価値が考慮されなければならない。この点で、行政とは、それぞれの社会状況における高度に複雑な社会政治的な環境下での福祉を考慮し、人間志向的な経営科学と言えるだろう。もし公共の価値や利益に関心のある人がいるのであれば、私はその人に行政を職業とすることを推薦する。行政で働くことは、私にとって喜びと誇りをもたらすのだ！」

Pan Suk Kim (延世大学 (大韓民国) 地域研究・開発研究所所長、公共政策学教授)

「行政は過去40年間にわたって進化してきたし、私の考えるところ、その変化は良い方向に向けてのものであった。私が行政に職を得たとき、専門職には女性やマイノリティグループに属する人々はほとんどいなかった。今日では、会議机を囲むのが、白人男性だけであるとか、ほとんどを白人男性が占めるといったことは滅多に無い。事実、人事部門の責任者は、自分が在籍していた頃と比べて学生が多様化していることについて、マックスウェル校を賞賛している。これは、私が37年前にマックスウェル校に入学した時にはクラスの女生徒はたった一人で、マイノリティグループ出身の生徒も一人(私)だけだっただけに、うれしい言葉だ。今は全く違っているのだ。

以上のように述べたからといって、これまでに実現した進歩に満足すべきではない。なすべき事はまだあるし、あなた方の世代は変化を生み出していくかなくてはならないのだ。変化を生み出すためには、緊急性の感覚と持続する努力が不可欠である。それゆえ、世界を今あるものから、そうあってほしいと考えるものに変えていくには、願望と努力がとても重要なのである。一発かっ飛ばして来い！あなたは、行政と呼ばれるこの「発展中の仕事」で、物事を良い方向に進めることができるのだ。」

Walter Brodnax（シラキューズ大学特別招聘教授、全米行政学会会長（2003-2004）、クラーク・アトランタ大学学長、元連邦政府及び州政府上級職員）

「これから数年間、地域社会の変化や現在働いている職員の退職に対応した新鮮なアイデアが必要になることから、行政という分野では沢山の新しい機会が待ち受けている。自分のしていることが、隣人やその子供達、地域社会の仲間達の生活に直接関わっていることを知ることは、あなたにとって大きな喜びとなるだろう。あなたにとって最大の課題は、変化を快く思わないことを典型としてきた制度において「変化の代理人」となることだろう。しかし、そこに踏みとどまって、最良の人々から学び、腰を据えて頑張りぬきなさい！」

Jessna Robinson（バージニア州ノーフォーク市補助金管理課経営分析担当、トロイ大学公共経営学修士、元ツーソン市インターン）

「今の世界で、行政よりもおもしろく、やりがいのある職業は想像できない。連邦政府が行うものであろうと、非営利組織のリーダーや市政担当者、その他何百もの地位において行われるものであろう、行政というのは、ハーラン・クリーブランドの言うところの、「目の覚めるような」仕事なのだ。金融から積極的傾聴、演説法、労使関係その他諸々をうまくこなすための幅広い訓練と知識を活かすことができなければならないのだ。あなたは、絶えず学び続け、さらに大切なことだが、日々市民が私達の民主的な社会で保障された権利を手にすることを手助けする機会を得られるだろう。デンハート夫妻が言ったとおり、あなたは「日常のレベルで民主政を届ける」ことになるのだ。

最後になるが、私はジョン・カーリンの「公共サービスとは、自分自身のため、そしてまだ生まれぬ世代のためによりよい未来を創り出そうとする人類の努力の偉大さの中心をなすものである。」という言葉を愛している。彼は、続けて公共サービスの成果は世界中に影響を与えると主張している。「人が希望を実現するために生み出す制度は管理を必要とする。・・・成功の判断基準は、特定の国や州、都市に住む人々にとってだけでなく、生活をより良いものにしようと望む世界中の全ての人にとって永続的な価値を有する。」これ以上人を奮い立てるような目標は想像できない。」

Mary. R. Hamilton（ネブラスカ・オマハ大学客員経営者、元全米行政学会理事（1997～2004）、元米国会計検査院幹部職員）

「マハトマ・ガンジーの有名な言葉に「あなた自身が、この世界で自分が目にしたいと思っている変化そのものにならなければならない。」という言葉がある。公務員になると、行政について教授することになろうと、実地研究を行うことになろうと、あなたはそういった種類の変化になることができる。メアリー・ハミルトンが言っているとおり、行政に関わる職業の選択肢はいくらでもある。比較的近年、非営利組織が広い意味の行政に含まれると考えられるようになったことで、私達すべてにとって、象徴的にも実質的にも機会は広まっている。

去る5月に、私は、公共政策大学院の学生に、彼らは愛と許しを実践しなければならないと語った。非営利組織を運営する人々は、愛をもって組織を運営しているので、私達は皆、彼らから学ぶことができる。公務員であれば、かつて彼を逮捕した人々を許し、国を変えた、慈悲深く、賢明なネルソン・マンデラ氏の例に大いに鼓舞されるだろう。あなたはよりよい未来を信じていますか？他人に希望を与えたいと思っていますか？もしそうであるなら、行政を、意義ある職務を選びなさい。」

Erick Bergrud (パーク大学 地域社会・政府関係論、全米行政学会副会長)

「職業としての行政とは、参加し、重要なことを成し遂げようという願望に關係すること全てである。私の学生は、基礎コースで「スマス都へ行く」を見ることからスタートする。この映画が偉大な諸原理や、自分自身や自分が抱える問題よりも重要な理想を尊重することの大切さを私達に思い出させてくれるように、人々の人生に影響を及ぼすことができる他のどんな職業があるだろうか？そこでは物質的な意味の豊かさを求めるることはできないけれども、一人の人にとってなのか、一つの地域社会、一つの国、はたまた世界のためであるかは分からぬが、世界をよりよいものにするために自分の能力を用いているのだという誇りを得られるだろう。職業としての行政は、しばしば過酷であり、時には割に合わず、ショッちゅう資金の欠乏に悩まされるけれども、自分の一歩が世界をより良い場所に変えていっていることを常にその目で見ることができるのだ。」

Tammy Esteves (トロイ大学助教授)

「我々の展望を暗いものにする要素は實にたくさんある。メアリー・ハミルトンは、本当に素晴らしい言葉を引用してみせてくれた。彼女の巧みな引用の中で、これらの言葉は一つの調和を保っている。エリック・ベルグルドの感動的なコメントは、我々自身が世界を見通すための窓にならなくてはならないということを私に示してくれた。タミー・エステバスのコメントからは、私達は皆本当の意味で「1人」であり、別々の存在なのだという考えが読み取れる。断片から全体への、メアリーの引用によるなら現在から未来への、スケール変更が可能なフラクタルな存在としての、エリックの「唯一無比」であれとの要請を伴う「1人」のイメージは、進んだ、啓発的なものであり、このようなイメージを欠いた場合には深まる一方であろう闇に抗する導きの光となるのだ。」

Matthew Witt (ラ・バーン大学保健行政学部准教授、全米行政学会民主主義・社会正義部門議長)